

# 県立図書館

## 第1節 概

## 要

### 1 はじめに

情報化時代における図書館の役割はますます多方面にわたってきており、図書を貸し出すということは、もとより社会の情報機械化とともに、それらに対処していかなければならなくなってきた。

これらに対処するために、図書館としては、既存資料の整備とあいまって、既刊図書の補充および新刊図書の体系的な導入に意を払うとともに、複写サービス、マイクロシステムの導入等、時代に即応した県民への奉仕体制を着々整えている。

特に昨年は長年の懸案であった、マイクロシステムを導入したので、目下新聞のマイクロ化の完成をめざして鋭意努力中である。

また、移動図書館“あづま号”の県内巡回を通じて市町村の読書施設である公民館図書室活動の活発化に協力してきたが、今後はさらに県民の期待に添えるよう奉仕体制の合理化をはかり、新時代に即応した図書館としての役割を果たすべく留意していかなければならない。

以下本年度における図書館業務の主なるものをおかけ参考資するとともに関係者のご協力をお願いする次第である。

## 2 福島県立図書館協議会の開催状況

### 第1回

日 時 昭和45年6月24日

場 所 県立図書館

出席委員 9名

議 題

- (1) 昭和45年度県立図書館組織運営ならびに事業計画について
- (2) 図書館資料の収集計画について
- (3) その他

### 第2回

日 時 昭和45年10月23日

場 所 県立図書館

出席委員 7名

議 題

- (1) 昭和46年度県立図書館関係当初予算編成について
- (2) その他

### 第3回

日 時 昭和46年2月26日～27日

場 所 県立図書館

出席委員 10名

- (1) 県立図書館関係46年度当初予算査定経過について
- (2) 本館利用状況について
- (3) その他

## 第2節 整理事務

### 1 図書館資料の収集

資料の収集にあたっては、福島県の資料センターとしての機能を重視し、あらゆる分野の資料の収集が必要であり、本年度もその収集にあたっては、各部門の参考図書、学術書等を中心に、利用者の希望にそうよう充分留意し必要最低限度の蔵書の確保につとめた。特に最近の自然科学、産業界の著しい進歩に即応して、図書館の蔵書構成もそれに対応出来るものとしなければならなかった。本年度の資料収集の重点目標の一つとして、昨年度の自然科学部門に引き続き産業部門の蔵書整備であった。そのため産業部門の蔵書診断を綿密に実施し、その整備充実を図った。

また県内出版物、郷土資料の発見につとめ、貴重な資料の散逸を防ぐため、同人誌、雑誌、新聞、行政資料、市町村史、市勢要覧、県人の著作品等あらゆる分野のものについて積極的にその収集にあたった。

本年度に受入れた資料は4,476冊であった。その内訳は[表1]のとおりである。

[表1]

	一般資料	郷土資料	計
購 入	2,969冊	87冊	3,056冊
寄 贈	705冊	508冊	1,213冊
編 入	128冊	79冊	207冊
計	3,802冊	674冊	4,476冊

この図書の増加状況を昨年度と比較すると[表2]のとおりである。

[表2]

	43年度	44年度	45年度
購 入	2,702冊	2,892冊	3,056冊
寄 贈	1,643冊	1,317冊	1,213冊
編 入	864冊	243冊	207冊
計	5,209冊	4,452冊	4,476冊

図書の増加冊数は昨年度とほぼ同数に止まった。購入冊数は約5.6%増で、これは予算増によるもので、予算増の割には増加冊数の伸びがなかった。それは平均単価(昨年は1,344円に対し本年は1,427円)の上昇によるためである。寄贈図書の約半数は郷土資料、行政資料で占めている。編入図書は購入または寄贈雑誌等消耗品扱いのものを合本製本し編入受入していたものを、事務の合理化のため編入受入事務を省略したため増加数が減少を示しているが、その実数は雑誌約140種、540冊がある

この外増加図書冊数に含まれていないものに、新聞260冊特許公報類等がある。

昭和46年3月末現在の蔵書数は[表3]のとおりである。